



# ひまわりライス通信

H30.8月  
No.107

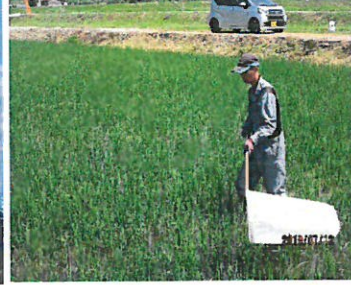
皆さんこんにちは、伊藤です。7月の大雨が過ぎてから、一気に夏の空になりました。遅れていた生育も、天候の回復によって生育の進捗が進み、平年並みになりました。6月下旬から7月上旬にかけて、湿度も気温も高く「いもち病」の発生に怯えていましたが、今のところ発生したという報告は受けていません。  
(\*´ω`)ヨカッタ♪ それでは、今月もいってみよう。ワ-イε=≡(\*・▽・)/



おや？今話題のドクターヘリかな？いやいや、違いますよ。これは、ラジコンヘリコプターといって、田んぼの防除をする無人ヘリコプターです。



病気や害虫が発生しないように、地域別に定められた防除基準によって防除していきます。広い田んぼもラジヘリで楽勝ですね♪



病虫害予察を基準日にあわせて行っています。左右に20回大きな網を振って、その中に何匹カメムシがいるか確認。



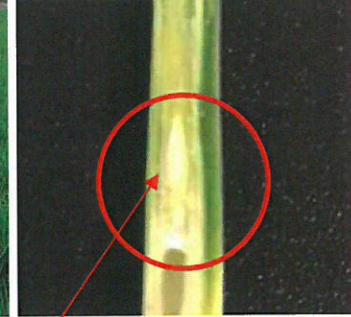
イネドロオイムシの幼虫を発見！ドロオイは、葉脈に沿って白いかすり状痕を残すので、多発すると水田一面が真っ白に！！



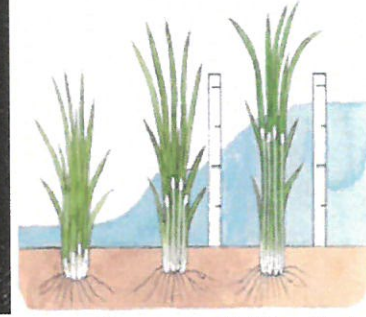
田んぼの溝切り作業です。溝切りをやることによって、排水がスムーズに行えて、中干もスムーズに実施できます。また、土中の有害ガスも抜くことが出来るんです！



深さ約10~15cm、幅約20cmの溝が入っています。昔の人はこれを、ブロックや舟形の角材を引っ張って歩いたそうです。かなりの重労働ですね。(´ω`;) )



この白いのが稲穂の赤ちゃん、幼穂(ヨウスイ)と言います。ここが2mmに達した日が幼穂形成期になります。この時期の水管理はとても重要です。



この期間は、花粉の数を決定づける大事な時期。この時に低温に遭うと花粉が減少するなどの影響を受けるので、10~20cmの深水管理をします。



出穂・開花期前後は水を最も必要とします。「花水」とも言われていて、この時期は圃場の水を絶やさないうちに気を付けなくてはいけません。(´ω`;)ホウ



お米のお花を見たことありますか？花と言っても、花びらはなく、代わりに籾殻になる「えい」の上側がパカッと割れるのが「開花」なんですよ。(´ω`;)b.+. )



花が咲いている時間は午前中の2時間程と短いので、大きさもかなり小さく、咲き終わると籾は閉じ二度と開くことはありません。(´▽`)Eー！



だいぶ、頭が垂れてきました。この時期を、登熟期と言います。稲は光合成によりデンプンを生産して胚乳に溜めて稲の種子を充実させていっています。

今月も最後までお付き合いいただきありがとうございました。いよいよ来月から稲刈りが始まります！このまま、無事に生長して美味しいお米を皆さんに届けられるのを願っています。それでは、来月号でまたお会いしましょう♪

J A きたそらち北竜支所 営農課  
直通 0164-34-2247 FAX 0164-34-2216  
生産情報公表 J A S のHPアドレスは <http://www.hokuryu-mai.com/>